

食事由来の炎症能と血中高感度 CRP 濃度および大腸腺腫の関連に関する研究

1. 研究の対象

対象①：食事由来の炎症能を評価する指標（Dietary inflammatory index, 以下 DII とします）と血中高感度 CRP 濃度および生活習慣の関連については、2009 年 2 月から 2013 年 12 月に、がん予防・検診研究センター（現、社会と健康研究センター）が実施するがん検診（以下、がん検診）を受診して研究協力についての同意が得られた方を対象とします。

対象②：食事のアンケートから把握した DII の確からしさの確認については、がん検診受診者のうち、2004 年 2 月から 2006 年 7 月に食事の妥当性研究に参加した方を対象とします。

対象③：DII と大腸腺腫の関連については、がん検診受診者のうち、2004 年 2 月から 2005 年 2 月末までに大腸腺腫研究に参加した方を対象とします。

2. 研究目的・方法

◇ 研究の概要：

食事を構成する様々な食品やこれらに含まれる栄養素などは、体内の慢性的な炎症レベルに関わることが示唆されています。また、炎症レベルが高い人ほど、大腸腺腫ができやすいことも示唆されています。

◇ 研究の意義：

DII が大腸腺腫の発生に関わることが明らかにできれば、将来の大腸がんの予防に役立つ可能性があります。さらに、DII と炎症レベルの関連が明らかとなれば、炎症レベルの予測指標として DII を利用できるようになり、大腸腺腫だけでなく、炎症に関わる様々な疾病との関連を調べられるようになります。

◇ 研究の目的：

目的①：食事由来の炎症能を評価する指標（Dietary inflammatory index, 以下 DII とします）が血中高感度 CRP 濃度と関連があるか明らかにし、DII が高い人の生活習慣にどのような特徴があるか調べます。

目的②：食事のアンケートから把握した DII の確からしさを確認します。

目的③：大腸内視鏡検査の結果から、大腸腺腫が見つかった人と見つからなかった人を対象に、DII と大腸腺腫の関わりを調べます。

◇ 研究の方法：

<研究デザイン>

がん検診受診者を対象とした横断研究

◇ 研究の実施期間：2022年3月31日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ① 食事記録票・食物摂取頻度調査票のデータ等
- ② 検診受診時の血液検査値（高感度CRP等）、疾患情報、生活習慣情報等

4. 外部への試料・情報の提供・公表

◇ 試料・情報の提供

「5. 研究組織」に列記する共同研究機関や海外の研究機関に試料・情報等を提供する場合は、書留・配達記録など、受取人の手元に確実に届くことを保証する仕組みを用います。電子媒体では、暗号化・パスワード管理など、第3者がファイルを容易に閲覧できない仕組みを施します。

◇ 情報の公表

研究の成果は、論文および学会等で発表します。

◇ 個人情報保護に関する配慮

解析する情報は、本研究専用割り振られた研究番号がわりふられており、解析者は個人を特定することはできません。

5. 研究組織

国立がん研究センター

麻布大学

サウスカロライナ大学

津金 昌一郎（研究代表者）

石原淳子

James R. Hébert

5. 問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報、知的財産の保護に支障のない範囲で、研究計画書、および関連資料を閲覧することが可能です。また、試料・情報が、当該研究に用いられることについて、対象者の方、もしくは対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。この場合も対象者の方に不利益が生じることはありません。

◇ 照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

国立がん研究センター 社会と健康研究センター 予防研究グループ

担当研究者：砂見綾香

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

電話 TEL 03-3542-2511（内線 1931）

◇ 研究代表者/ 研究責任者

国立がん研究センター 社会と健康研究センター

センター長 津金 昌一郎